

## 「福祉と食のつながり」

副学長 豊島琴恵

2002年本学に「生活福祉専攻」が設置された後、2008年には介護福祉士養成課程の大改訂が行われました。新カリキュラムでは、生活支援に関する知識と技術の強化が求められ、その中に「食事の介護」つまり食べさせる技術も含まれていたと思います。

本学福祉専攻もそれに伴い、食事介助専用の食器やカトラリーを揃え、介助の実演には、食物栄養専攻の豊島ゼミが食事を用意させていただきました。それ以来不定期ではありますが「食べる・食べさせる」といった食支援に関する実技を、福祉と食物の学生が共同で行う機会をいただくようになりました。

教養科目ではなく専門科目において、学科専攻の垣根を越え学ぶ演習科目の設置が実現できないものか、当時の先生方と、そして在職の福祉専攻の先生方とも話をさせていただいたこともありました。その実現には至りませんでした。5年前よりゼミナールの時間に、食物の学生が献立を立案し食事を提供、福祉の学生は食べさせる支援者目線で料理の形態を確認しながら共食をする。あるいは、地域の高齢者を招いて食事を共にしながら、それぞれ専門の学びを発表する。といった合同での活動を行っています。

私にとってこの経験が、福祉の現場で働く栄養士にとって何が求められるか考えるきっかけとなり、食物専攻で全国初「実務者研修」が取得できるよう働きかけることにつながっていきました。その際も宮下先生や平野先生には大変ご尽力いただきました。

卒後教育として4年前よりはじめたスキルアップ講座には、生活福祉の卒業生も多く参加され、中には講話をお願いしたこともあります。活躍されている卒業生の姿を随所でうかがう度に、これまでの先生方のお導きの賜物であると

痛感致します。

2025年問題を間近に地域の課題はますます深刻になります。福祉の専門職と栄養士が協働しながら発展することが、何より重要な時代に、これからもご教授いただきたいと切に願います。